

2 へらそうごみ

- ⑦ごみの量をへらしてまちを美しく
①ごみの量や中身はどのようにうつりかわっているのでしょうか

教科との関連

社会 指導計画(第13次試案):
第4学年 2住みよいくらしとごみ
(11)(12)へらそうごみ
~わたしたちにできること~

ねらい

「処理したごみの量と市民1人が1日に出すごみの量のうつりかわり」と「ごみの中身のうつりかわり」のグラフについて調べ、大阪市のごみの量の変化をとらえるとともに、人びとの生活の変化にともなって、ごみの種類も変わってきていることや、ごみを減らすための動きがはじまることを理解できるようにする。

留意点

○「処理したごみの量と市民1人が1日に出すごみの量のうつりかわり」のグラフをもとに1991年からごみは減少していることに気付くようにする。

○市民1人が1日に出すごみの量に着目し、その理由を考えるようにする。

○大阪市のごみのうつりかわりの特色をとらえ、そのわけを自分の生活を振り返りながら考えるようにする。

⑦ごみの量をへらして、まちを美しく(つづき)

- ②まちを美しくするにはどうすればいいのでしょうか

ねらい

まちを美しくするために、大阪市が取り組んでいる活動について調べ、わたしたちにできることを考えるとともに、人々が協力して美しいまちづくりを進めることの大切さに気付くようとする。

留意点

○自分たちのくらしているまちの公園や道路で、よく捨てられているごみの種類や量について見たり、そうじしたりした経験から知っていることについて話し合い、美化活動の学習への意欲を持つようとする。

大阪市がまち美化推進に向けて、様々な制度や活動などの取り組みを行っていることに気付くようとする。

○日頃ポイ捨てをしていないか振り返り、自分がごみを散らかさないためにどうすればよいかを考えるようにする。また、まちの美化に対しても自分が積極的にできることはいか、自分が実践していることや、地域の美化活動を想起しながら具体的な行動を考えるようにする。

○まちの美化が、市役所だけでは解決できない問題であり、大阪市でくらす人々一人ひとりが美化意識を高め、美化を推進していく必要があることについて気付くようとする。

⑦ごみの量をへらしてまちを美しく

①ごみの量や中身はどのようにうつりかわっているのでしょうか

今から60ほど前の1960年ごろから、物を作る工業の発展とともに、生活用品などを大量に使ってはするという生活のしかたが広まってきたしました。それについて、大阪市のごみも急にふえ始め、1991年度には最も多くなりました。その後、分別収集によって、一部のごみをリサイクルに回すようになったことや、ごみをへらす運動がはじまることもある、しょりしたごみの量はだいにへってきました。

大阪市がしょりしたごみの量は、2019年度で、1年間におよそ93万トンになりますが、2015年度から見た場合、ここ数年は大きな変化はありません。

せいけつで安全な生活を送るために、また、環境を守るためにも、わたしたちはごみをへらす努力を続けることが大切です。

②まちを美しくするにはどうすればいいのでしょうか

近くの公園や道路で、ごみが捨てられているのを見かけることがあります。

わたしたちのまちを、ごみのない美しいまちにするには、どうすればよいでしょうか。

ごみのポイ捨て防止

大阪市では、まちをもっときれいにするために「ポイ捨て防止条例」を定め、1995年から、これまで以上に市民の協力を呼びかけています。

ノーポイモデルゾーン

一日中、人の行き来が多い駅のまわりや、店などが集まっているにぎやかな場所を「ノーポイモデルゾーン」に決めています。

ボランティア清掃

まちの人たちや会社で働く人たちなど、たくさんの人たちが進んで、道に落ちているごみを集めたり、上ごれているところをそうじしたりして、まちを美しくする活動を行っています。

美化強化デー(毎月1日)

毎月1日を「美化強化デー」として、まちの人たちや会社で働く人たちにそうじをよびかけています。

路上喫煙防止のとりくみ

大阪市では、2007年に「路上喫煙の防止に関する条例」を定め、すいがらのポイ捨てにつながる歩きたばこをなくすようよびかけています。

アカシちゃん

たばこ市民マナー向上エリア まちの人たちや会社で働く人たちなど、歩きたばこをなくすようよびかけています。

◆大阪市のごみ減量の目標

大阪市のごみ処理量は、廃棄物等の発生抑制、再使用や再生利用の取組を積極的に推進してきた結果、減少傾向にあるが、2019年度93万トン(2018年度93万トン)で、前年度から横ばいとなっている。

大阪市では、2020年3月に一般廃棄物処理基本計画を改定した。前計画において将来目標としていた「令和7年度のごみ処理量:84万トン」を引き続きめざすこととしており、これまでの減量施策に加え、市民・事業者・大阪市の連携のもと、ごみの発生抑制や再使用の取組(2R)をより一層進め、ごみ減量に向けた取組を行うこととしている。

令和7年度ごみ処理量 84万トン

■基本方針

1. 2Rを優先した取組の推進
 - (1)分かりやすい情報提供と環境教育・普及啓発
 - (2)生ごみの減量
 - (3)市民・事業者・行政による取組の推進
2. 分別・リサイクルの推進
 - (1)家庭系ごみ対策
 - (2)事業系ごみ対策
3. 環境に配慮した適正処理と効率的な事業の推進
 - (1)環境に配慮した適正処理の推進
 - (2)ごみ処理事業の一層の効率化と安全かつ安定した体制の整備
 - (3)3Rや適正処理の推進に係る検討
 - (4)国際協力の推進

◆まちを美しくするための大阪市の取り組み

ボランティアの活動と連携しながら、まちの美化を推進していることを理解できるようにする。

- ・ポイ捨て防止条例
- ・ノーポイモデルゾーンの設置 (ターミナルや繁華街)
- ・まち美化パートナー制度
- ・美化強化デー (毎月1日)
- ・大阪市路上喫煙の防止に関する条例
- ・路上喫煙禁止地区の指定
- ・たばこ市民マナー向上エリア制度

2 へらそうごみ

⑧ごみしょりにたずさわっている人びとの気持ち

① 働いている人びとにはどんな願いや苦労があるのでしょうか

教科との関連

社会 指導計画(第13次試案):

第4学年 2住みよいくらしとごみ

(7)ごみ処理にたずさわる
人びとの思い

ね ら い

ごみの収集や処理に携わる人々の話を通じて、働く人の努力や苦労に気付き、働く人の思いや願いを理解するようにする。

留 意 点

○P14の「ごみを出すときのやくそく」をふり返った後に、働く人の話を読み、その努力や苦労について話し合うようにする。

○働く人の思いを考えてふきだしにして書くことにより、思いや願いに迫るようにする。

○国語科の手紙を書く学習を活用し、働く人たちにお礼の手紙を書く活動を取り入れるのもよい。

◆ごみについての出前授業と 焼却工場の見学

職員と接する機会でもある出前授業と工場見学をぜひご利用ください。
(巻末資料P64参照)

⑧ごみしょりにたずさわっている人びとの気持ち

① 働いている人びとにはどんな願いや苦労があるのでしょうか

ごみの集め方やしょりについて学習してきたみんなは、働いている人たちにインタビューしてみました。

● ごみを集めてる人の話

雨の日でもごみは集めているのですか？

集める時にこまつことはありますか？

● ごみを出してる人の話

雨や風で天候が悪い日でも収集に行きます。ごみの中にガラスなどのきげんな物がまじっていてけがをすることがあります。また、使い切っていないスプレー缶がばくばくつい、パッカー車が火事になったこともあります。「ごみを出すときのやくそく(P.14)」や「ごみを出すときに注意すること(P.15)」をきちんと守ってほしいと思います。

● 焼却工場で働く人の話

ごみは毎日でも、もやしつづけているのですか？

どのような仕事をしているのですか？

● うめ立て地で働く人の話

わたしのやめ立ての仕事では、24時間ごみをもやしつづけるために交代しながら、夜中も昼夜がうまく働いているか点検したり、ごみがちゃんとえてしまっているか見守ったりしています。

夜中の仕事にあたった時は、夕方に工場に入り、朝、家に帰ることになります。

● みんなで考えてみよう

ごみを集めている人の話

ごみを集めている時、パッカー車を見て、鼻をつまみ、「くさいな。早くむこうへ行けばいい。」と言われることがあります。

わたしたちはみんなが出したごみをしょりして、気持ちよくくらせるように、毎日あせを流してがんばっています。それなのに、なぜこんなことを言われるのかと思うと、悲しい気持ちになります。

もしわたしたちがごみを重め、しまりしないと、まちじゅうがごみだらけになってしまいます。子どもおとなも、みんなもう一度、よく考えてほしいと思います。

ごみを出しているのは、わたしたち全員です。わたしたちが健康で気持ちよくくらしていくうえで、ごみのしょりにたずさわる人たちの働きは、たいへん大きなものがあります。

人びとの環境とくらしを守る仕事や、そこで働く人たちに対する正しい考えを持つことが、お互いが大切にされた明るい社会をつくるうえで、とても大切なことです。

ごみの問題は、毎日の生活と深いかかわりがあるので、学習したことなどをおうちの人たちともよく話し合ってみましょう。

ごみをへらすために、できることや、考えたことを書きましょう。

ね ら い

ごみの収集や処理に携わる人びとに対する誤った見方や考え方について考え、正しい職業観を持つようにするとともに、人権を大切にした生き方が重要であることを理解し、自分としてどうすればよいかを考えるようにする。

留 意 点

○これまでの学習をふり返り、ごみを処理する人々の仕事が市民の生活に欠かすことのできない大切な仕事であることを確認する。

○「ごみを集めている人の話」を読んで、ごみ処理の仕事にたずさわる人々に対する誤った見方や考え方について問題意識を持つようにする。

○ごみ処理は人びとの生活に関わる大切な仕

事であること、それらの仕事をしている人々の苦労や願いについて理解できるようにし、さまざまな仕事がよりよい社会を形づくっていると気付くようにする。

○社会にある職業差別や偏見について考え、どの仕事も社会をつくる上で大切なものであるという平等意識を高めるようにする。